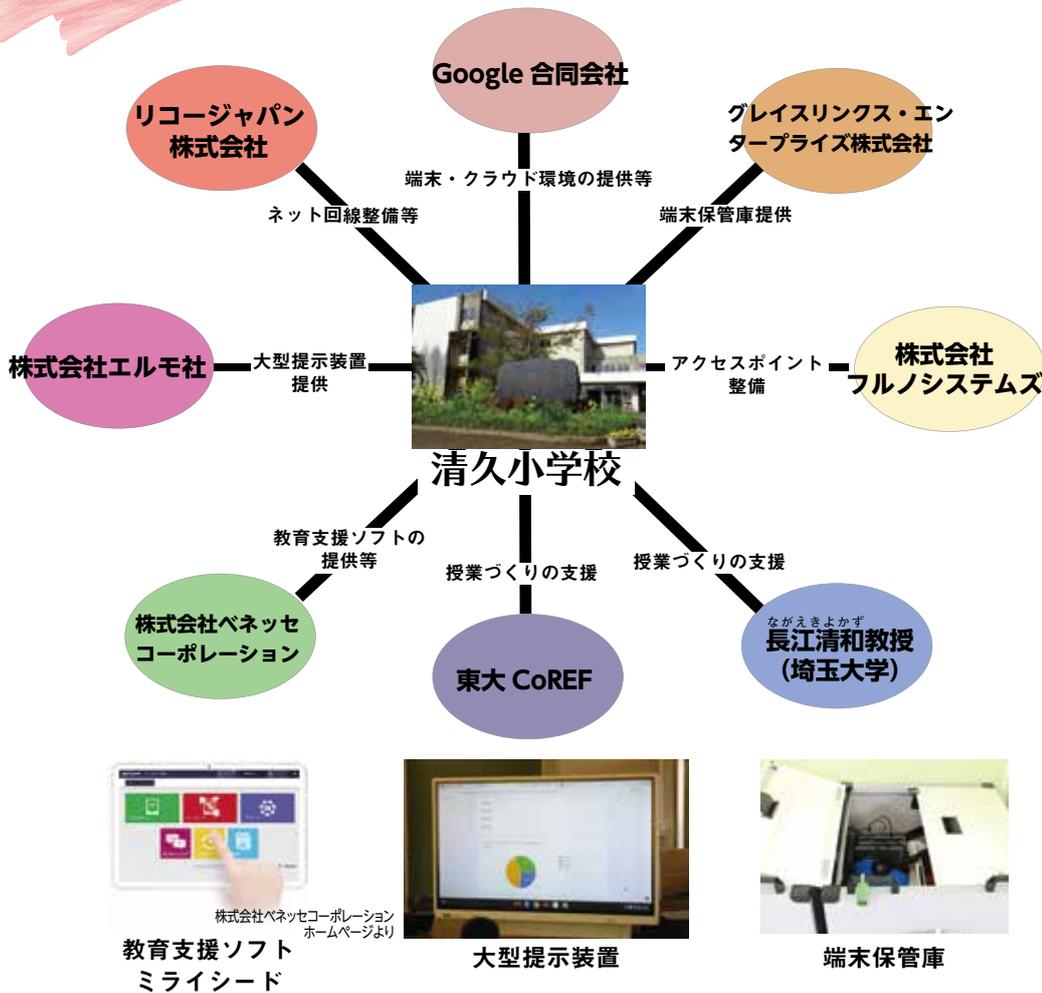




清久小学校と企業・大学等の協力関係



清久小学校を舞台にした 久喜市版未来の教室イメージ

久喜市版未来の教室を実現するためには、機器等の整備だけでなく、教員によるICTを活用した授業設計力、授業で活用するソフトなど、さまざまな要素が必要です。清久小学校の先行実施では、多くの企業や大学にご協力をいただいています。

より良い学びの環境とは

授業で活用するソフトの提供などでご協力いただいている、株式会社ベネッセコーポレーションにお話を伺いました。



株式会社ベネッセコーポレーション 瀬川 裕也さん

株式会社ベネッセコーポレーションが開発した教育支援ソフト「ミライシード」。例えば、ある課題に対して、児童がタブレットに入力した回答は、教員の端末と大型モニターに一斉に映し出されます。これによって、児童は他の児童の考えを知ることができ、自分の考えを練り直すことができるようになり、教員は一人一人の理解度を瞬時に把握できます。

未来の教室事業やGIGAスクール構想など、急速に変化する学習環境ですが、肝心なのは「より良い学びの環境とは何か」を考へることだと感じています。今後、1人1台端末が配備されることにより、いかにICTを活用した新たな学びを提供できるかが大きな課題だと考えています。うまく対応ができなければ、自治体間の教育格差にもつながりかねないと、教育に関わる身として感じています。

そんな中、久喜市は県内でもいち早くそうした事態に対応し、より良い教育活動を実践できている自治体という印象を強く受けています。

国は、言語能力、問題発見・解決能力に並び、情報活用能力を教育の柱として位置づけました。時代に対応する子どもたちを育むためにも、私たち企業や学校、そして地域全体が目を向けていくことが必要だと考えます。